

大学名 弘前大学(地域未来創生センター)

表題 誰もが助かるレジリエントな地域社会づくりを考えるー互惠性の可能性と限界ー

取組の様子



(リモート学習支援の様子)
学生の声:子供を助けることで自分も楽しかった。



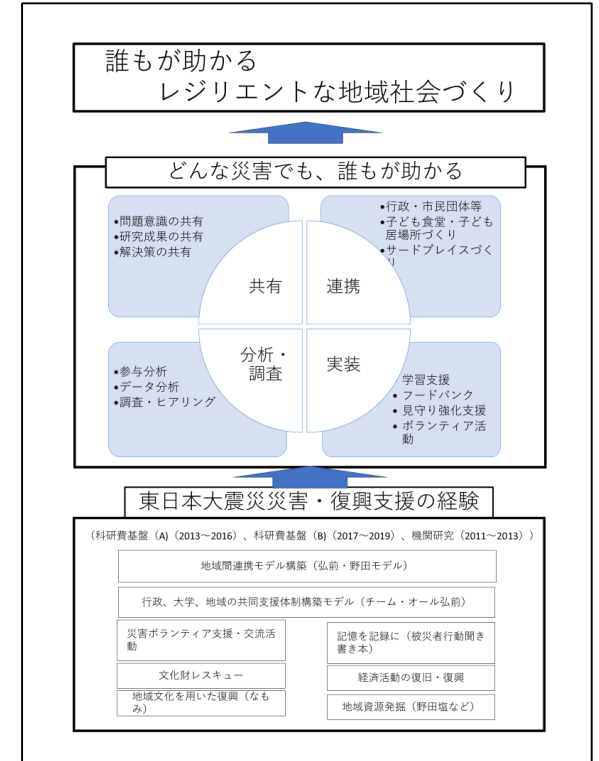
(子ども食堂学習支援の様子)
学生の声:授業の一環として参加したが、刺激を受けた。

特色ある取組

災害は、地震や台風、感染症などのハザード(外力)に対して社会の脆弱な部分が存在したとき、初めて発生する。本プロジェクトは地域に根ざしている地方国立大学の強みを活かし、外力に対し、その地域の脆弱な部分がどこにあるのか、困っているのが誰なのかを正確に把握し、地域住民と大学ボランティアセンターが共同で支援を行うものである。データと実践活動への参画を通して正確に実態を把握し、教育とボランティア活動を一体化した支援活動によって、どんな災害でも誰もが助かるレジリエントな地域社会づくりを目指している。

具体的な取組

- ①新型コロナが地域住民の暮らしに与えた影響を多角的に、エビデンススペースで検証することを通して、地域社会の脆弱性を可視化すること。
- ②文献資料や言説、思想史の資料を通して、過去に生じたさまざまな災害や疫病に対する先人たちの対処やその成否、長期的影響がいかなるものであったかを丹念に読み解き、人々の史的経験からの教訓を明らかにすること。
- ③①と②の研究成果を統合し、支援が必要な方に、行政や市民団体と連携し、必要な支援を届けること。
- ④教育とボランティア活動を一体化し、支援活動を実施すること。2020年4月から延べ300名を超える学生らが学習支援などに参加している。



期待できる成果・評価 など

プロジェクト代表者らは、東日本大震災をきっかけにボランティアセンターを立上げ、市民、行政、大学が一体となった「チームオール弘前」の支援活動を継続してきた。活動では、支援交流活動の実践と復興政策研究と防災教育を、社会貢献活動、教育、研究活動を有機的に実践してきた。この経験を活かし、どんな災害でも誰もが助かる社会を目指し、研究と社会実装に取り組む。

期待できる成果

- ① 災害対応を経験した地域人材の育成、②学習支援を通しての地域学力向上、労働生産性の向上、③地域内の疎外層への支援を通して流出人口を食い止める。④安心安全な地域づくりに貢献することなどが期待される

参考URL

・弘前大学人文社会科学部
地域未来創生センターHP
<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/irrc/>